

「農業技術の匠」：^{いちがなえ} ^{きんじょうまさお} 金城 政雄 さん（ 沖縄県恩納村 ）
～さとうきび一芽苗を利用した補植による単収の向上～



〔金城 政雄さん〕

1 技術確立の背景(目的)

さとうきび栽培において単収を上げるためには、栽培初期の茎数確保とその後の茎伸長が基本です。特に沖縄本島で収穫面積の6割以上を占める株出し栽培では、ハーベスターでの収穫時に株の引き抜きや踏み潰しで生じた欠株を解消して茎数を確保する補植技術が最も重要になってきます。金城政雄さんは一芽苗を使って補植用の苗を作り、それを毎年畑に補植することで高単収を維持しています。

2 技術概要(技術効果)

収穫の2～3ヶ月前、10月頃から堆肥と土、砂を混ぜてふるいに掛け、高さ15cmほどの苗床を作ります。そこに一芽苗を伏せ込んだり、セルトレイに一芽苗を植え、トレイを苗床の上に置いて育苗して分けつと発根の旺盛な大苗を作ります。収穫後に、育苗した一芽苗を自ら改良した細幅のクワを用いて欠株部分に補植することで茎数を確保し、地域の平均単収を上回る栽培を続けています。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

欠株対策として、経費をかけずに補植苗を育苗して補植作業を確実にすることによって単収を上げる金城さんの方法は、他の農家にも普及できる技術として、JAの機関誌や砂糖関係の情報誌にもたびたび紹介されています。

また、平成19年度からは共同育苗ハウスを利用した普及を展開しています。一芽苗を共同育苗することで、作業の効率化とさとうきび農家の情報交換の場をつくり、増産への機運を高めていくことが狙いです。

さらに、補植用一芽苗の栽培暦を作成して講習会を開催したり、さとうきび増産推進大会を開催して栽培方法を紹介するなど普及に努めています。このような取り組みによって、本島北部のみならず、他の地域でも補植用一芽苗の栽培が広がり始めています。



〔セルトレイ苗を補植〕

※最寄りの普及指導センター { 沖縄県北部農林水産振興センター農業改良普及課
住所：沖縄県名護市大南1-13-11
TEL：0980-52-2752

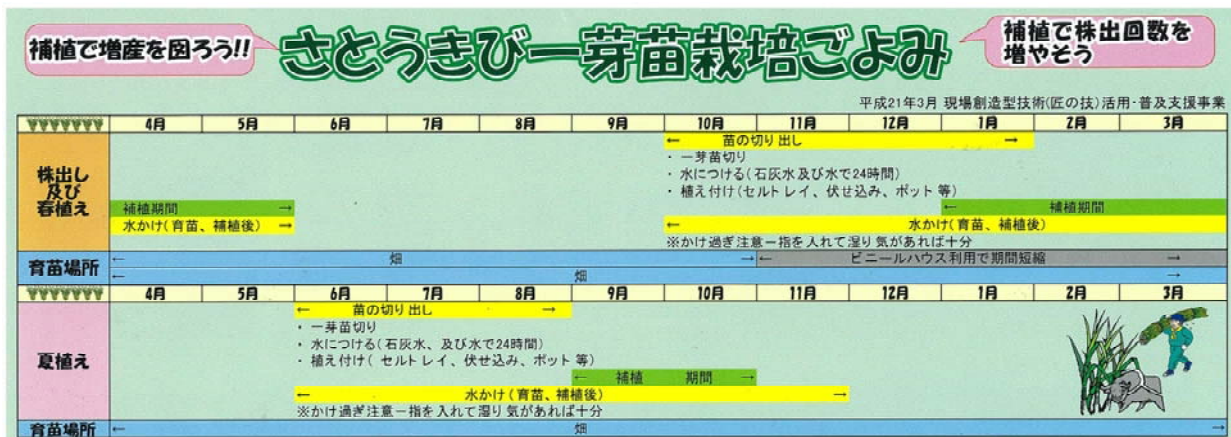
<技術のポイント>

元株に負けない大苗づくりと補植のタイミング

- ① 健全な芽のついた苗を選び、専用の苗切り機で一節ずつ切る。切った苗を1日程度水または石灰水につけて発芽を促す。
- ② 育苗はセルトレイを用いたり伏せ込み等の方法で行う。培養土はフィルターケーキやバガス堆肥等を使う。発芽から成苗まで水かけを十分に行いながら分けつと発根の旺盛な大苗をつくる。
- ③ 補植苗の植え付けは、葉数が7～8枚以上のときに行う。苗は蒸散を抑えるため葉を切って、活着を促すため補植前の苗に充分水をかけてから植えつける。植え付けのときは、周辺の株の葉身を途中から切って補植苗に光が当たるように工夫する。補植後も水かけを必ず行う。



<さとうきび一芽苗栽培暦>



一芽苗作業手順

- ①種苗用 さとうきびの切り出し 良い苗を選ぶ
- ②一芽苗切り 健全な芽を確認しながら行う
- ③水又は石灰につける 24時間程度水につける。または石灰水につけるとさらに効果が高い。水から上げたあとビニール袋(肥料袋)等に入れて芽を乾かす(太陽光に当てる)。
- ④植え付け セルトレイ、ポット、伏せ込み等の方法で行う。畑土はフィルターケーキ及びバガス肥料等を使う ※芽の向きに注意
- ⑤水かけ 水かけ(育苗管理) 発芽～成苗まで水かけは十分に行う。
- ⑥補植苗の植え付け 葉数7～8枚以上で補植する。補植の前に葉の半分程度切葉する。
- ⑦補植(移植) 補植苗植え付け機やクワ等を使って10cm以上の深さに植える
- ⑧補植後の水かけ 補植後の水かけは必ず行う。